

環境整え 豊かな海を



ブナの苗木を植える青森中央学院大3年のベトナム人留学生ブ・ビック・ゴックさん(左)と同3年の角田貴代さん

——平内の国有林—— 苗木300本

林、漁業関係者や留学生ら

陸奥湾と山をつなぐ植樹祭

「陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭 and シンポジウム」(陸奥湾の高温障害からホタテを守る植樹祭実行委主催、毎日新聞青森支局など後援)が30日、平内町茂浦の国有林で行われ、林業や漁業の関

係者や留学生ら約100人が参加。ブナなどの広葉樹の苗木約300本を植樹した。

植樹祭は、昨夏の猛暑で湾内の水温が過去最高となり、ホタテが大量死した問題を受け、山への植樹で落ち葉などの栄養を含んだ水が海に流れ込む環境を整え、豊かな海をつくる目的で企画された。

開会セレモニーで、永井雄人実行委員長が「ホタテが立派に成長できるようにしたい」とあいさつした後、参加者は山の斜面にブナやミズナラなど3種類の苗木を植樹した。作業後は会場を「道の駅ゆくさ浅虫」に移

治25年3月8日 第3種郵便物認可 ©毎日新聞社 2011 (日刊)



新 毎 日 新 聞

11月1日(火)

2011年(平成23年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

ホタテを守る 寄付を御 願いします

し、NPO法人「森は海の恋人」理事長で、宮城県気仙沼市でホタテなどの養殖業を営む

畠山重篤さんが、東日本大震災後の海の変化や山の腐葉土に含まれる鉄分と海の保全との

関係をユーモアたっぷりに講演。末松広行・林野庁林政部長や田中克・京都大名誉教授、

三津谷広明・むつ湾漁業振興会長らとパネルディスカッションをした。【北林靖彦】